

30年のノウハウと実績の結晶をここに！ アジア1を目指すカッティングマシン

切

る。様々な産業分野でカットは重要な工程だが、それを自動化するのがカッティングマシンだ。日本で使われる多くはヨーロッパ製であり、様々なマイナスイ面もある。これを転換する、「モノづくり日本」が誇るべきカッティングマシンを提供しているのが、ACS株式会社だ。

主力の「ASシリーズ」は2010年販売開始。今日まで数年で、日本製カッティングマシンの国内販売シェアトップになった。開発者の魚本泰良社長は話す。



魚本 泰良 社長

「高性能・高品質・低価格を最大のテーマにしています。性質が異なるいろいろな材料が高精度で高速に切れる。メカ・電気部分・ソフトなど全て自社で完成させますので、独自でありながら廉価に提供できます」

板紙、厚紙、段ボール、プラスチック段ボール、ポリエチレン製発泡材、軟質ウレタン、アルミ複合板、ゴム、パッキン類など硬いものから軟らかいものまで非常に多くの素材を切る。

三層段ボール（強化段ボール）も高精度に切る。輸出梱包はこれまで木枠梱包が多かったが、大きく、虫やその卵を防ぐ燻蒸処理が大変だった。これに変わるのが三層段ボール。切りやすい素材ではないが、同社製品は他社にできない斜め

に歯を入れるVカットが角度を可変的に容易にできる。同様にVカットが生きる

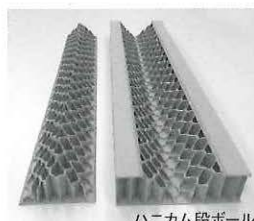
のが、家具にもなる頑丈なハニカム段ボール。自動で角度を変え振動Vカットを行う。抵抗が強く機械の強度が要るが、同社製品は耐久性も高い。店舗には軽くて持ち運び楽なハニカム製内装具のメリットが大きく、製作用の導入が増えている。

新分野も切り拓く 日本製のメリット最大限に

「可能性を感じているのが布。多品種少量が進むアパレルや着ぐるみの分野で喜ばれると思う。繊維は本来切りづらいですが当社製品は大丈夫です」（魚本社長）
カットについてはどこにも負けない。それが認められ、新分野を切り拓



「ASシリーズ」のAS2616F。省スペースな縦型もある



ハニカム段ボール



スポンジ

カットサンプル

く、特注依頼も多い。ヨーロッパ製はアフターサポートが弱いが、同社製品は日本製のメリットを最大限生かし万全・迅速の体制を敷く。そもそも故障が少ない。1980年、自動車の溶接時に水分の漏れを防ぐシール剤の塗布をロボット化する産学協同事業に中心的に携わった魚本社長。そこからカッティングマシンの世界に入り30年、ノウハウと実績を積み上げた。その結晶として最高の製品を送り出すべく同社を設立した。今や大手企業の引き合いも

多く、業界をリードする存在となった。展望を話す。「目指すはアジアナンバーワン。タイにデモ機と共に駐在員がすでにおり、納入実績がありますが、韓国・中国・東南アジア・インドにも製品を届けます」（魚本社長）

【会社データ】
本社工場 埼玉県川口市前川町3-365
☎ 048-486-9896
設立 2009年9月
事業内容 産業用カッティングマシンの開発・製造・販売
<http://www.acs-1980.com>